

2023年12月16日(土)、17日(日)
第5回飛騨高山学会

中心市街地の食料品アクセス問題と 行動リスクの均質空間

名古屋経済大学 経済学部
地域政策ゼミナール

目次

- 1 研究の目的・背景
- 2 調査の対象・方法
- 3 調査結果
- 4 高齢者人口との関連
- 5 おわりに

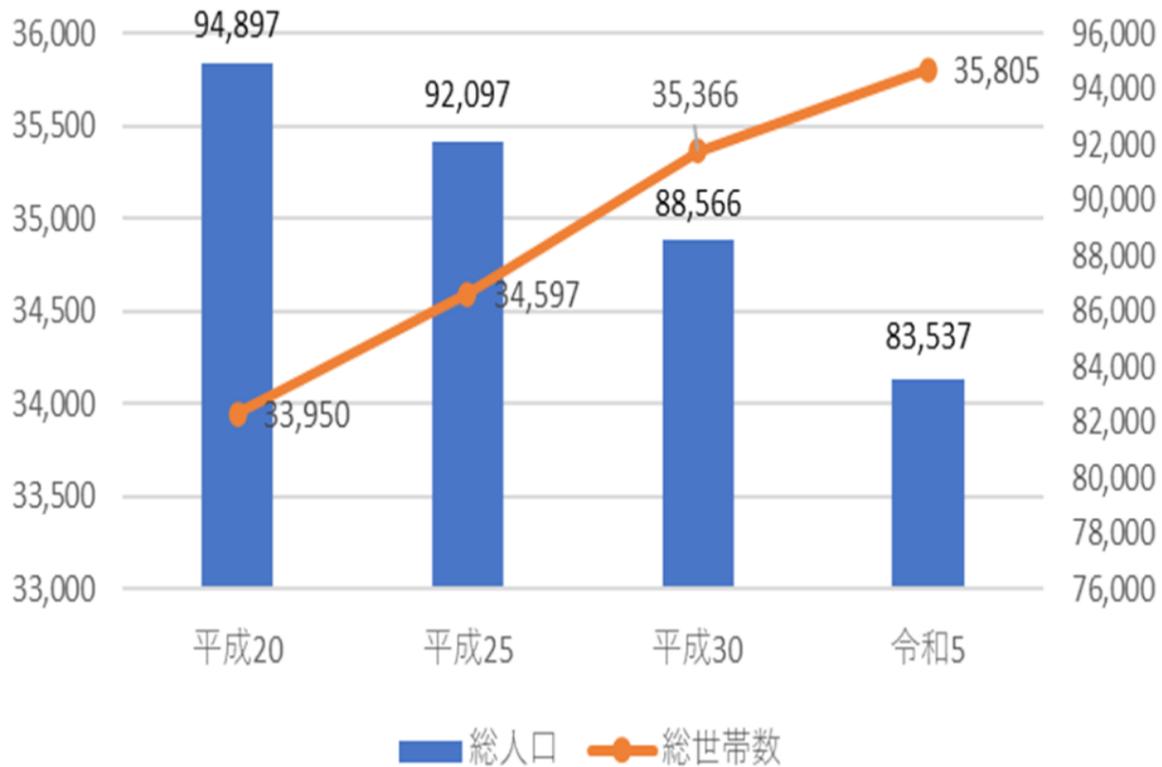


1. 研究の背景・目的

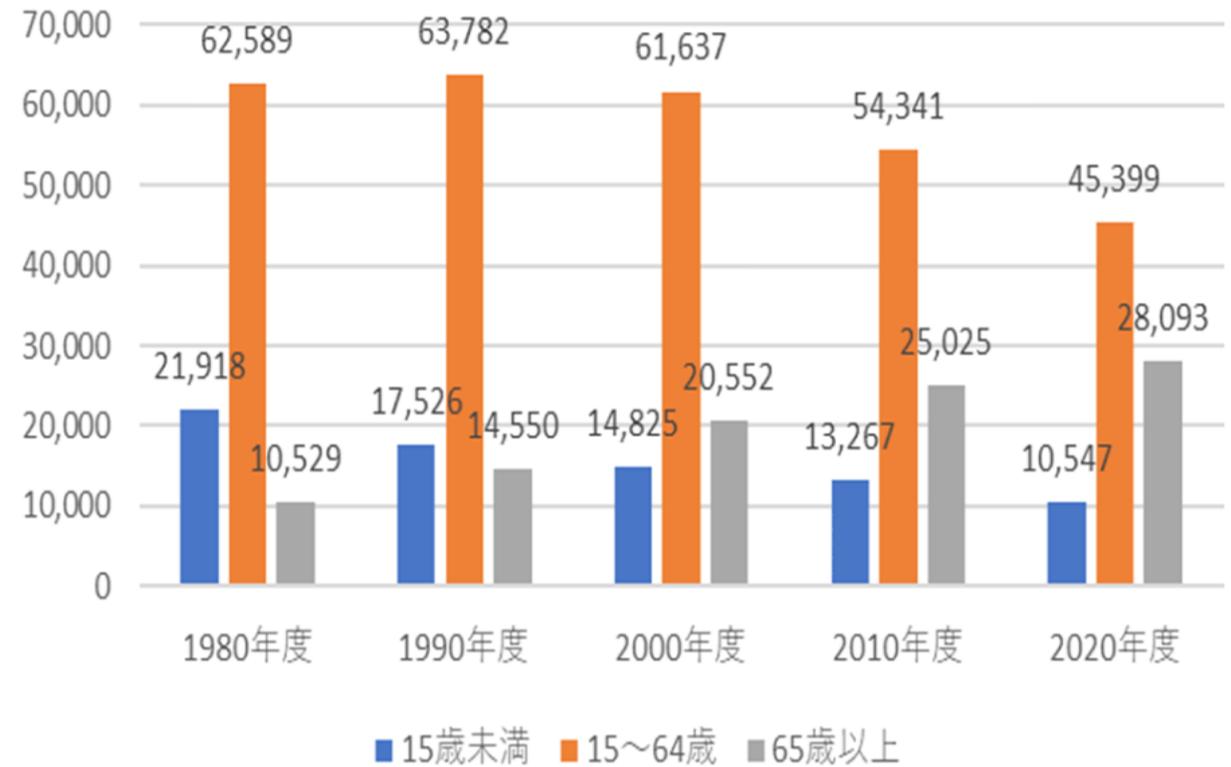


◆ 人口減少と高齢化の問題①

高山市の人口と世帯数の比較



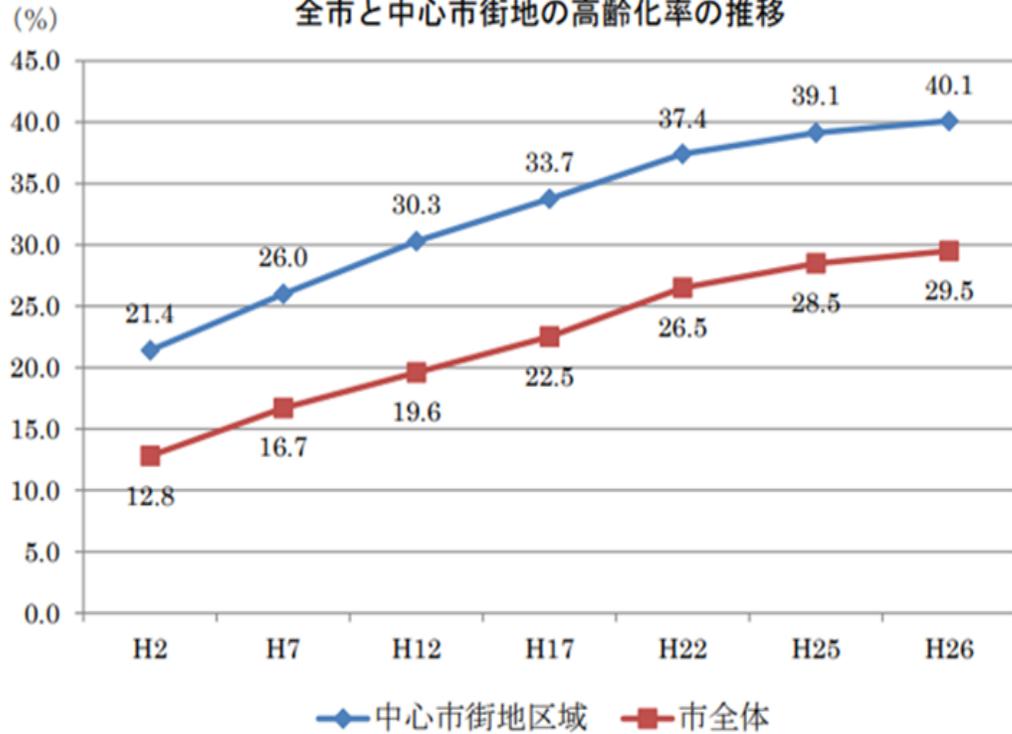
年代区分人口変化



- ・令和5年には高山市の人口は8.5万人を下回るほど減少し続けている
- ・一方で総世帯数は増加傾向、だが年少人口は減少→子持ち世帯が減少?

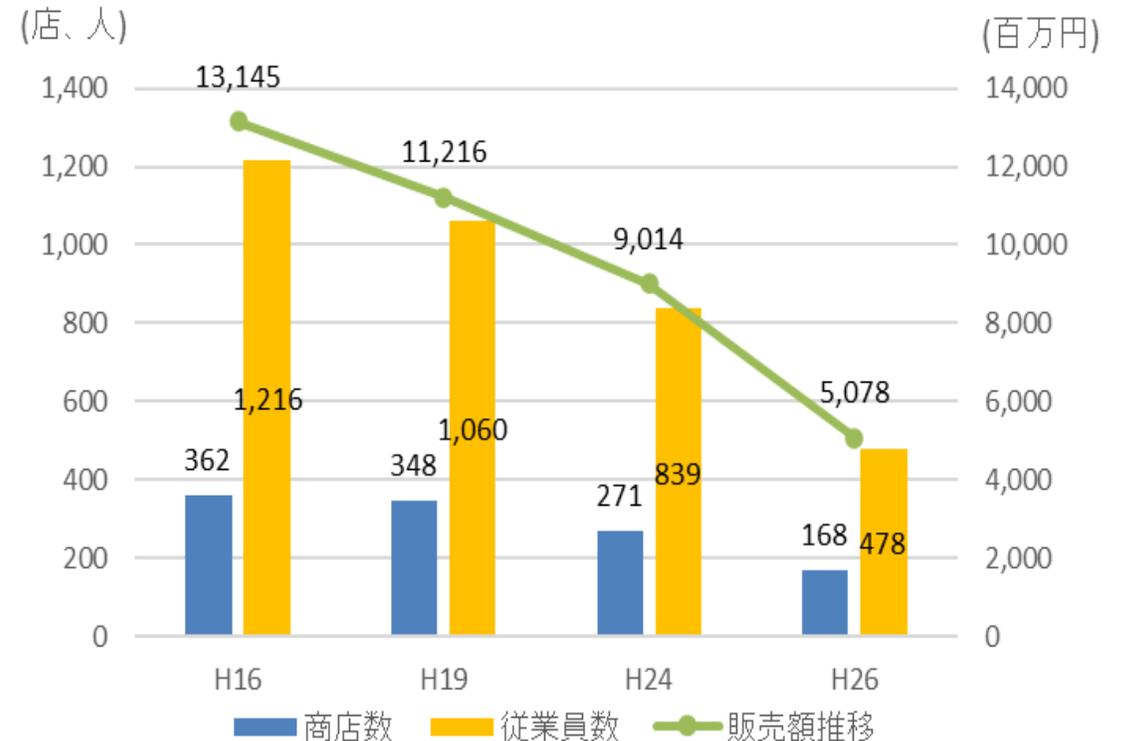
◆ 人口減少と高齢化の問題②

全市と中心市街地の高齢化率の推移



・中心市街地の高齢化率は市全体より増加

中心市街地の商店数、従業員数、販売額推移



・商店数の縮小に伴い従業員数も減少

◆ 地域社会を取り巻く現状と食料品アクセス問題

- 近年、生活必需品の入手が困難だと感じる高齢者が多く
食料品アクセス問題が深刻化
- 中心市街地で暮らす高齢者の生活支援が可能な親族も遠方へ
転出するなど、高齢者の**孤立**を誘発。
- 食料品スーパーの誘致等による食料品アクセスの改善は
長期的な視点に基づいて**取り組むべき地域課題の1つ**とされている

前年度調査を始めた先輩方は“高齢者の生活環境面向上が
解決の糸口”と推察し調査を行った。

今年度は、前年度の+αとして調査の課題点を解消し

リスクの発見数を増やすことを目標に調査を行った。



2. 研究対象と調査方法

研究対象

高山の中心市街地内の高齢者の買い物行動に伴う潜在的リスク
(前年度の調査を継続)

- ・ リスク種類
 - ・ 道路の段差や陥没
 - ・ 車両通行による歩行困難
 - ・ 視認性の低い交差点
- ・ リスク度合い：各リスク地点を高・中・低で評価



調査方法

2023年9月8日（金）

駿河屋本町店、ファミリーストアさとう国分寺店を中心に4チームに分かれ**放射線状**に街歩きをしながらリスク箇所について調査

1.道路の段差や陥没

高

- 人通りの多い道路の陥没や段差が顕著
- 範囲が広い

中

- 人通りの少ない道路の陥没や段差
- タイヤや足がひっかかる

低

- ひび割れ,溝の隙間
- つまづく危険性あり

高



中



低



2. 車両通行による 歩行困難

高

- ・通行量が多く
車と歩行者の距離が近い
- ・幅が狭く, 白線がない

中

- ・白線が消えかかっている
- ・障害物により道幅が狭い

低

- ・一部の白線がない
- ・車通りは少ないが道幅が狭い

高



中



低



3. **視認性の低い** 交差点

高

- 電柱や建物によって見えづらい
- 中, 低の要素を多く含む

中

- カーブにより見えづらい
- 車の認識がしづらい

低

- ミラーがない
- 車通りは少ないが車の認識がしづらい

高



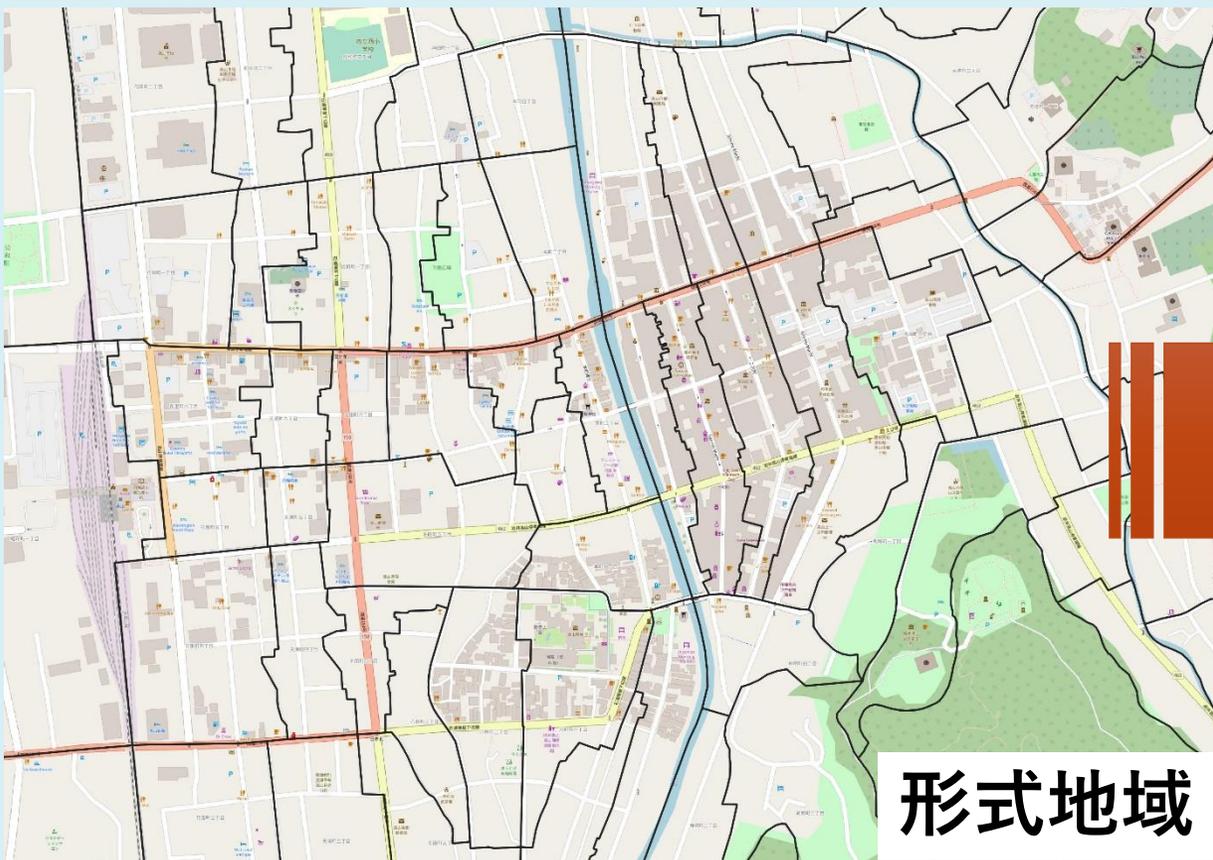
中



低



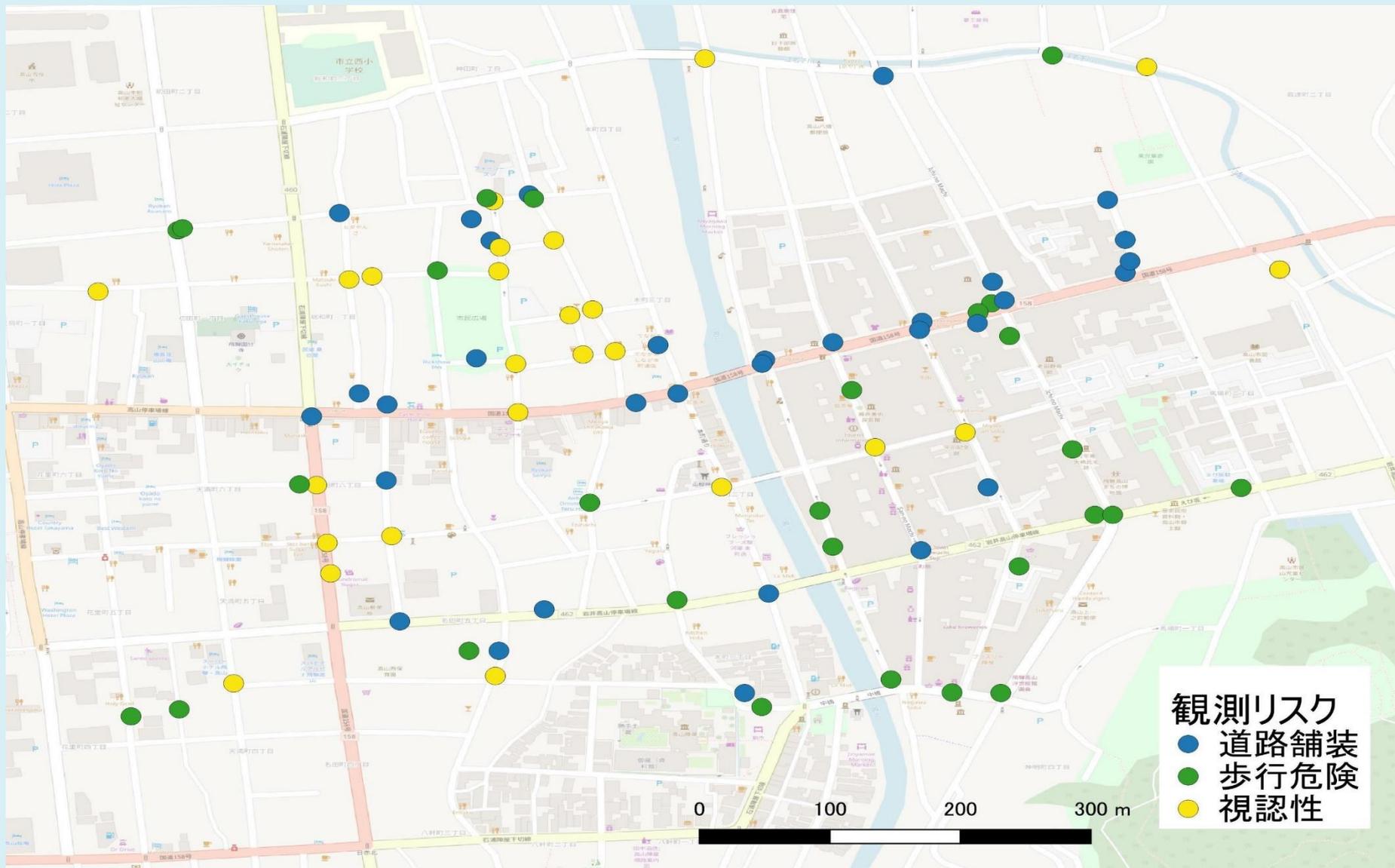
◆ 「地域」の定義と均質空間



- ・ 代表例として **行政区画**
人々が集合し社会経済活動をおこなう空間であるが、その集合が特定の意味・内容を有さない地理的空間



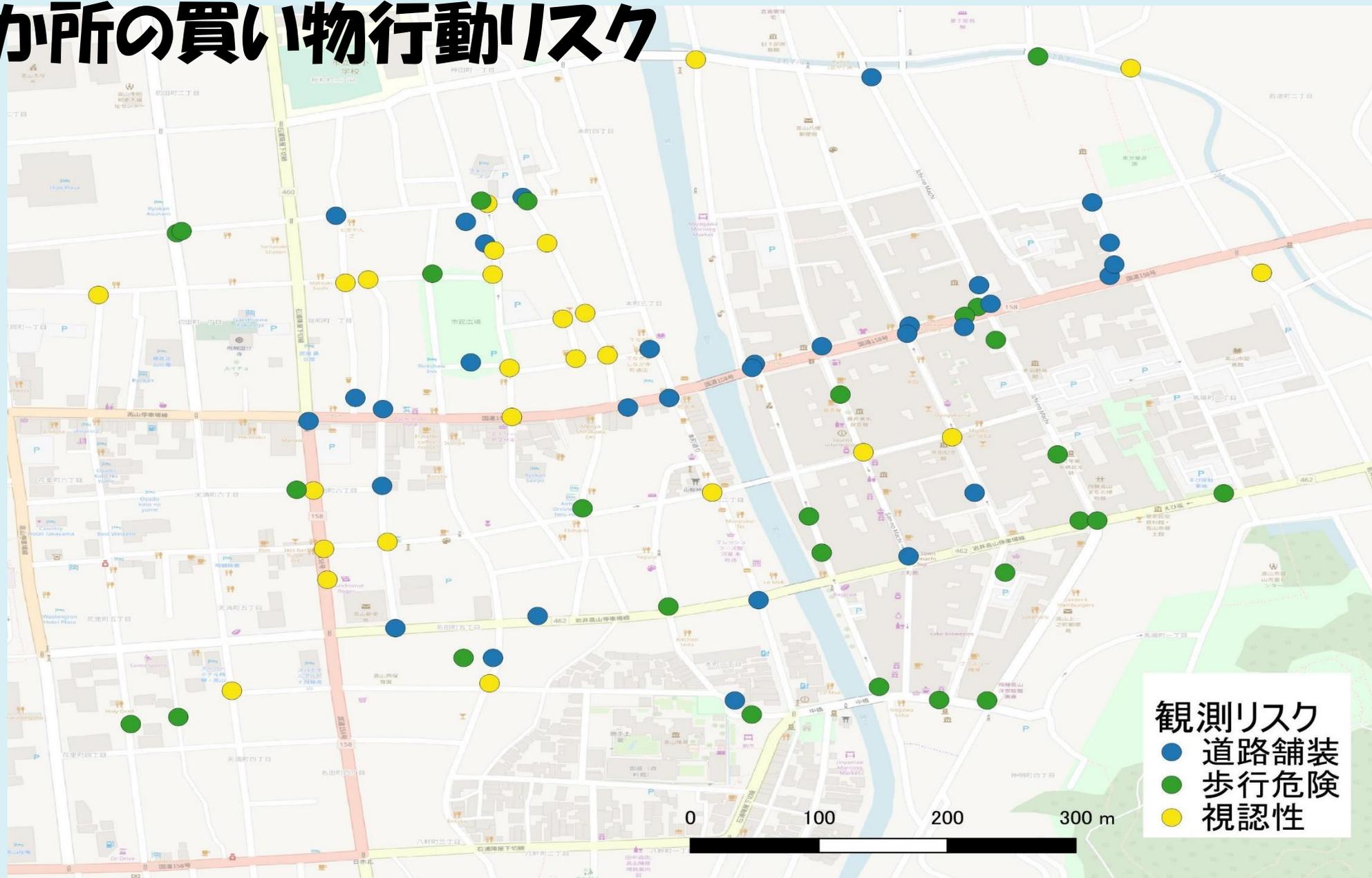
- ・ 代表例として **商圏**
人々が集合し社会経済活動をおこなう空間であり、ある種の統一性のもとに他から区別される地理的空間



均質空間とは何らかの共通する特徴がみられるエリア
 ⇒ 本研究では**リスク分布の集合に基づく統一性**

3. 調查結果

◆84か所の買い物行動リスク



1. 道路の段差や陥没



特徴

32地点

- 交差点に集中している
- 商店街に段差が多い
- 国分寺通り～国道にかけて多い
- 国道158号に舗装していない部分が目立つ。
→車通りが多いので車道は整備されている

2.車両通行などによる歩行困難



特徴

27地点

- 中心から外れた道に多い印象
- 観光地の道に多く分布
- 白線がない箇所が多数
- 駅から離れた南東地域に集中する

1. 道路の段差や陥没



2. 車両通行による歩行困難



3. 視認性の低い交差点

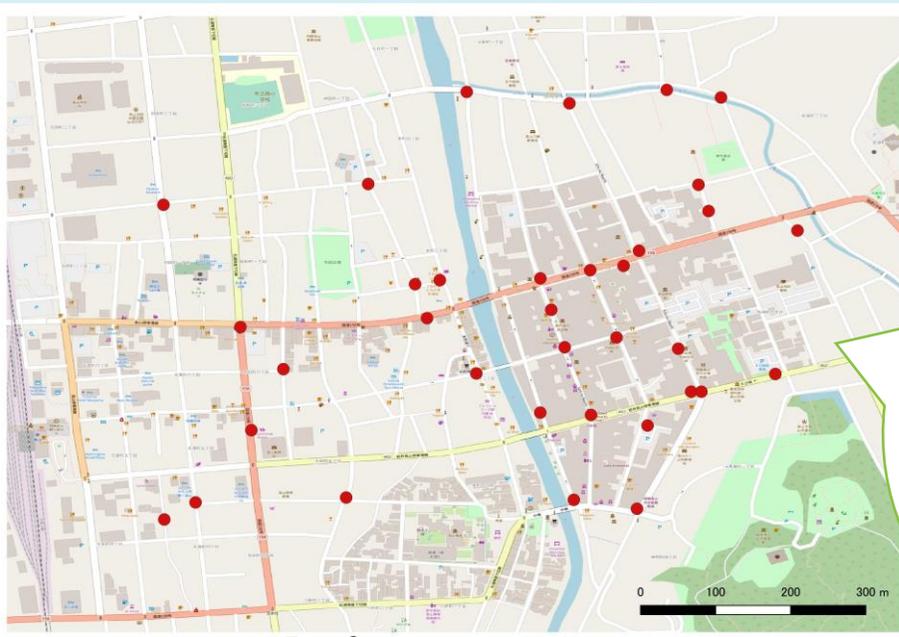


考察

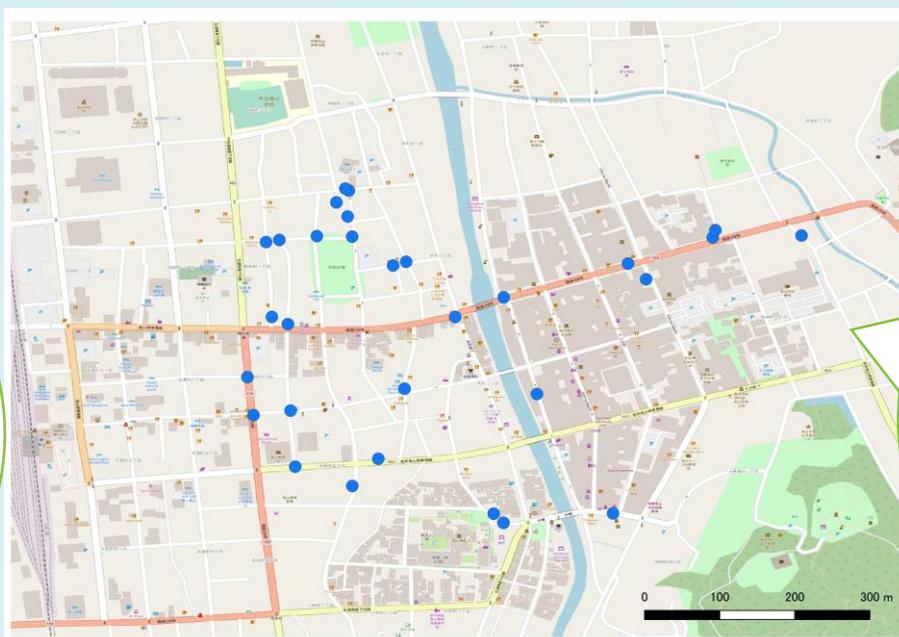
- 北東にはリスクが少ない
- 観光地は、舗装が行き届いていない
さらに歩道が狭い
- 視認性の低い交差点が北西に集まっている

リスク度合い **高**

リスク度合い **中**

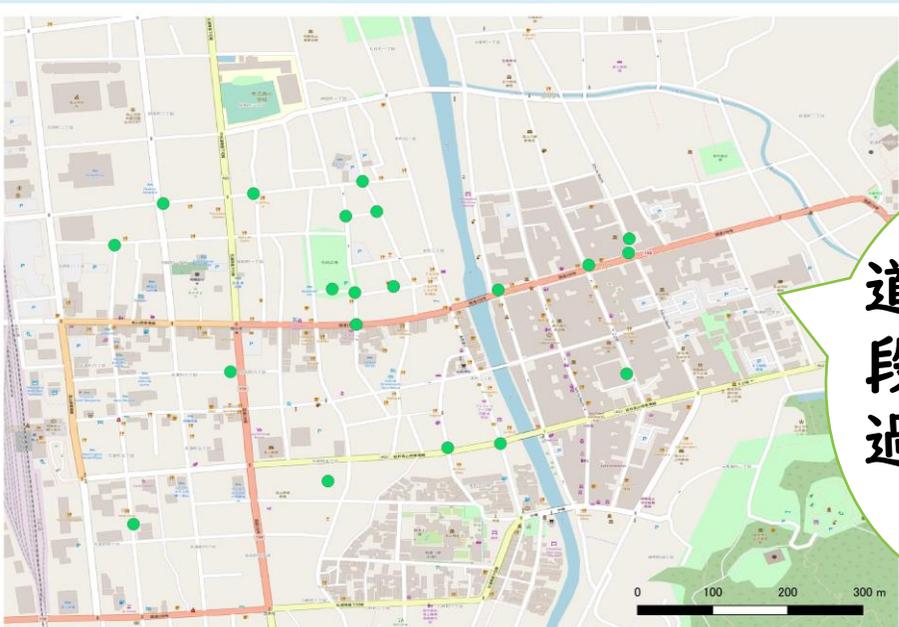


観光地
(南東)に
歩行困難
が集中



宮川の
左側(西)
に多い

リスク度合い **低**



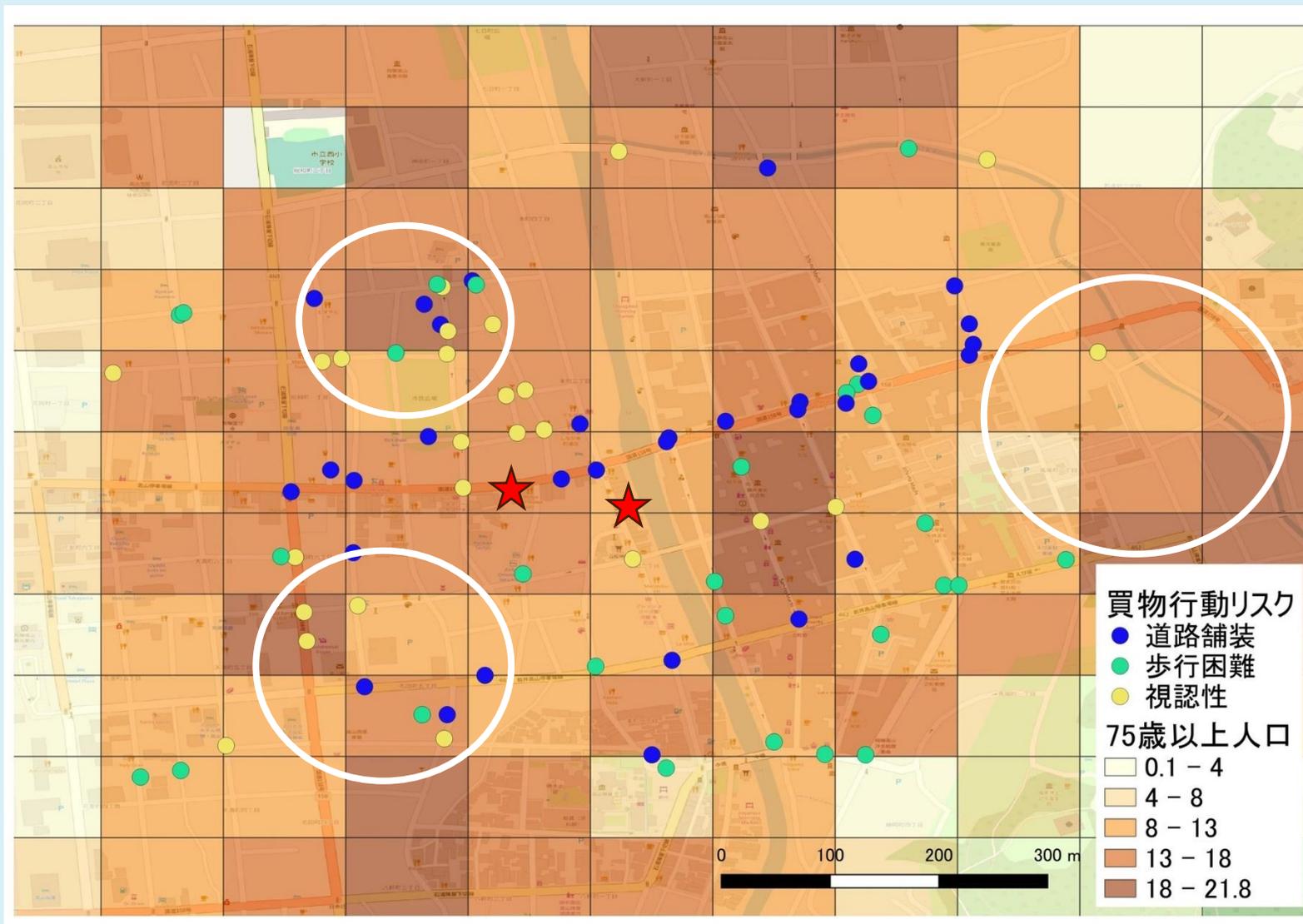
道路の
段差陥没が
過半数

考察

- リスク**高**は観光地に集中している
- リスク**中**、**低**は歓楽街に集中している傾向がある
- 交通量の多い道に集中している
- 高齢者が多く住む南西にリスク**高**が集中しているため対策が必要

4. 高齢者人口との関連

◆ 75歳以上人口 × リスクの種類



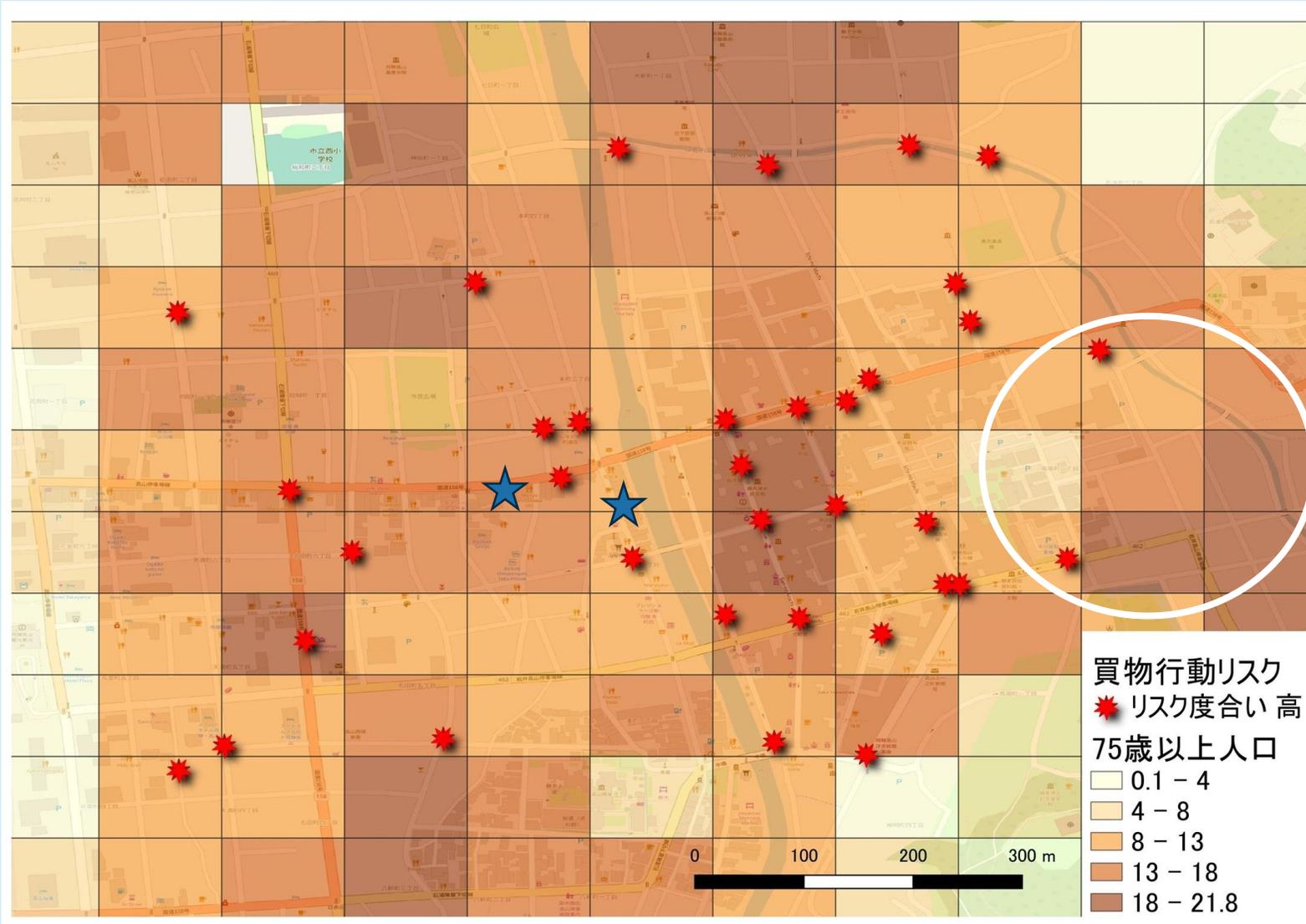
(100mメッシュによる推計 (按分) 人口)

買い物リスクの想定

- ・小学校周辺に高齢者も
住む住宅地
→建物で視認性が低く
買い物アクセスが危険
- ・南東エリアから
スーパーへのアクセス
→リスクのある所を
通って行かなければ
ならない
- ・国道からのアクセス
→大きい道では視認性が
低く、狭い道では
道路舗装などが危険

◆ 75歳以上人口 × リスク度合い：高

解決策



・宮川を超えた
観光地+南東エリア
は、リスク度合いの
高い道を通して
スーパーに行かなけ
ればならない。

・宮川を超えた南東
エリアにも高齢者が
多く住んでいる場所
がある
→そのエリア周辺に
新たな食料品施設

(100mメッシュによる推計 (按分) 人口)

5. おわりに

- 今回の調査の結果、**宮川の近くに**高齢者が多くそのエリアの買い物行動リスクも多い結果に。
- また狭い道から国道へ合流する交差点にもリスクを発見
これからの季節を考えるとさらにリスクが増えると予想
- 1つの提案として川を越えた**南東エリアにスーパーを設置**
- 地域とのつながりが強く代行で買いに行ってくれる存在や
山王地区まちづくり協議会のような街と行政をつなげる団体も存在。
頼れる地域の人が居ることも確認できた。

今後に向けた課題点・提案

- 時間をかけてグラフなど数学的情報をもう少し多く入手したかった
- 調査の考察を広げるため、**現地に住む高齢者の方と街歩き。**

参考文献・資料

- 新井健生(2022)「地方都市の中心市街地と郊外部におけるフードデザート問題―群馬県桐生市を事例に―」『駒澤大学大学院地理研究室』第49号
- 大橋めぐみほか(2017)「高齢女性の食品アクセスが食生活と健康に及ぼす影響の分析―地方都市中心市街地における食品スーパー開店後の住民調査より―」『フードシステム研究』24巻2号
- 名古屋経済大学(2022)「高齢者の買い物行動に伴う潜在的リスクの可視化」『第4回飛騨高山学会予稿集』
- 農林水産省ホームページ「食品アクセス(買い物弱者・買い物難民等)問題ポータルサイト
- 薬師寺哲郎(2015)「超高齢社会における食料品アクセス問題」ハーベスト社
- 山下宗利(2006)『中心市街地の活性化と今後の役割』経済地理学年報
- 岐阜県環境生活部統計課(2023)『統計からみた高山市の現状』岐阜県公式ホームページ
- 平成26年商業統計調査結果を基にした高山市の商業
- 高山市中心市街地活性化基本計画
- 平成24年経済センサス―活動調査結果を基にした高山市の商業